

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

H27-エイズ-若手-001

ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と
HIV および梅毒罹患率の
推計に関する研究

- 平成 27 年度 ~ 29 年度 総合研究報告書 -

研究代表者

塩野徳史

大阪青山大学

平成 30 (2018) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

H27-エイズ-若手-001

ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究

目次

総合研究報告	3
--------	---

(資料)

『dista でピタッとちえっくん』検査会の概要	21
--------------------------	----

表 1 検査会利用者の属性に関する調査結果	34
-----------------------	----

表 2 コミュニティセンター利用者の属性に関する調査結果	39
------------------------------	----

研究成果の刊行に関する一覧表	47
----------------	----

ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学/MASH 大阪）

研究協力者：後藤大輔、町登志雄、宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

大畑泰次郎、伴仲昭彦（MASH 大阪）

鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）

松本健二（大阪市保健所感染症対策監）

半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）

安井典子、櫻井理恵、真木景子、松村直樹（大阪市保健所感染症対策課）

岡本香子（保健衛生検査所）

研究要旨

本研究の目的は大阪の MSM(Men who have sex with men)を対象に、血液検査と連動させた前向きコホートの構築と人年法を活用して HIV 感染症および梅毒の罹患率を推計し、予防啓発の評価尺度を確立することである。

先行研究では日本の HIV 感染動向は MSM に限局的に拡大しており、特にゲイ向け商業施設利用者は性行動が活発で、感染リスクの高い集団である。また MSM において梅毒は感染が増加していることも報告されている。MSM における HIV 感染や梅毒感染の状況を把握することは、今後の感染対策の方針の決定や予防啓発の評価尺度として極めて有効である。ゲイコミュニティにおける血液検査と連動した前向きコホート形成は国内で初めてである。調査デザインは血液検査結果と連動させた前向き追跡研究である。研究参加者の個人特定には指紋認証の技術を応用したシステムによって ID を発行し、氏名や住所などの個人情報取得は必要ない。研究参加者は量的質問紙調査法を活用したベースライン調査とフォローアップ調査および血液検査を継続的に参加する仕組みとした。

初年度はコホート体制や検査体制を整備し、2年度目、3年度目でコホート構築を目指した。登録者目標数 300 人、フォローアップ目標数 100 人としていたが、コホート登録者は3年間で 237 人となり、目標の 79.0%の達成率(2017 年 11 月時点)となった。コホートの継続率は 18.1%と低く、このうち追跡中の新たな HIV 抗体抗原新規陽性者は 0 人、梅毒抗体抗原新規陽性者は 1 人であった。HIV 感染罹患率は計算できなかったが、人年法により梅毒感染罹患率は 2.20%/年(95%信頼区間：-2.06%~6.46%)であると推計した。本研究で実施した検査会は大阪市が事業化し、MASH 大阪(コミュニティセンターdista)と協働で、次年度以降も継続される見込みである。今後も継続してデータを蓄積していくことで意義のある研究成果が得られると考える。



2015年度

	1回目 8月	2回目 9月	3回目 10月	4回目 1月	計	2014年度
受検者数	25人	27人	23人	52人	127人	60人
初利用者	25人	26人	22人	44人	117人	
指紋登録者数	24人 (96%)	22人 (84.6%)	18人 (81.8%)	28人 (63.6%)	92人 (78.6%)	-
結果受け取り	25人	24人	22人	51人	122人	59人
HIV陽性判明数	0人 (0.0%)	3人 (11.1%)	4人 (17.4%)	0人 (0.0%)	7人 (5.5%)	1人 (1.7%)
梅毒受検者	24人	26人	22人	52人	124人	
梅毒陽性判明数(要治療)	0人 (0.0%)	2人 (7.7%)	3人*重複 ¹ (13.6%)	0人 (0.0%)	5人 (4.0%)	2人 (3.3%)
梅毒陽性判明数(既往含む)	2人 (8.3%)	3人 (11.5%)	3人 (13.6%)	2人 (3.8%)	10人 (8.1%)	-

2016年度



	1回目 7月	2回目 8月	3回目 10月	4回目 11月	5回目 1月	計	2015年度
受検者数	47人	19人	26人	36人	43人	171人	127人
初利用者	40人	15人	21人	32人	34人	142人	117人
指紋登録者数	26人 (65.0%)	9人 (60.0%)	16人 (76.2%)	21人 (65.6%)	24人 (70.5%)	96人 (67.6%)	92人 (78.6%)
結果受け取り	44人	19人	26人	35人	42人	166人	122人
HIV陽性判明数	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (3.8%)	1人 (2.8%)	0人 (0.0%)	2人 (1.2%)	7人 (5.5%)
梅毒受検者	47人	19人	24人	36人	43人	169人	124人
梅毒陽性判明数(要治療)	3人 (6.4%)	0人 (0.0%)	1人 (4.2%)	4人 (11.1%)	1人 (2.3%)	9人 (5.3%)	5人 (4.0%)
梅毒陽性判明数(既往含む)	5人 (10.6%)	3人 (15.8%)	4人 (15.4%)	7人 (19.4%)	6人 (14.0%)	25人 (14.8%)	10人 (8.1%)

2017年度



	1回目 5月	2回目 7月	3回目 9月	4回目 11月	5回目 1月	6回目 3月	計
受検者数	48人	30人	25人	31人	39人	39人	212人
初利用者	36人	20人	17人	20人	25人	27人	145人
指紋登録者数	26人 (72.2%)	14人 (70.0%)	8人 (47.1%)	16人 (80.0%)	19人 (76.0%)	23人 (85.2%)	106人 (73.1%)
結果受け取り	48人	28人	25人	30人	39人	35人	205人
HIV陽性判明数	2人 (4.2%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (0.9%)
梅毒受検者	48人	30人	25人	31人	39人	39人	212人
梅毒陽性判明数(要治療)	2人 (4.1%)	2人 (6.7%)	1人 (4.0%)	0人 (0.0%)	1人 (2.6%)	3人 (7.7%)	9人 (4.2%)
梅毒陽性判明数(既往含む)	5人 (10.4%)	2人 (6.7%)	4人 (16.0%)	2人 (6.5%)	5人 (12.8%)	8人 (20.5%)	26人 (12.3%)

A. 研究目的

本研究の目的は大阪の MSM(Men who have sex with men)を対象に、血液検査と連動させた前向きコホートの構築と人年法を活用して HIV 感染症および梅毒の罹患率を推計し、予防啓発の評価尺度を確立することである。

先行研究によれば日本の HIV 感染動向は MSM に限局的に拡大しており、特にゲイ向け商業施設利用者は性行動が活発であり、感染リスクの高い集団である。また MSM において梅毒は感染が増加していることも報告されており、MSM 対象の検査会での梅毒有病率は HIV 感染よりも高い。MSM における HIV 感染や梅毒感染の状況を把握することは、今後の感染対策の方針の決定や予防啓発の評価尺度として極めて有効である。初年度は大阪のゲイ向け商業施設を中心としたゲイコミュニティにおいて、血液検査と連動させた前向きコホートを構築することを目的とした。

B. 研究方法

血液検査と連動させたゲイコミュニティコホートの体制構築を目的に、初年度にコホート方法の開発と体制整備を行い、血液検査を継続した。検査会の運営では大阪市保健所や大阪府予防週間実行委員会と、広報や支援団体との連携・研究推進では MASH 大阪と協働した。

1) コホートの構築

本研究では初年度に対象者の個人特定には生体認証の技術(スワイプ式指紋認証システム)を応用したシステムを開発し、今年度もコホート集団の構築を継続した。指紋情報はソフトウェア(OmniPass)を活用し、暗号化した上で ID を番号シールとして発行する。情報の保守性を考慮し、本研究で活用する機器端末は、インターネット接続されない仕組みとした。

2) 連続横断的な無記名自記式質問紙調査の実施

対象集団の属性とゲイコミュニティの中心にあるコミュニティセンターdista 血液検査会のインパクトを把握するために、約1ヶ月間(6月・12月)コミュニティセンターdista 利用者を対象に質問紙調査を実施した。

3) コミュニティセンターにおける血液検査会の実施

個別のID発行後、対象者は大阪市保健所がコミュニティセンターdista で実施する無料匿名のHIV抗体および梅毒抗原・抗体検査を受検した。受検時に研修を受けたNGOスタッフが研究目的と概要を口頭で説明し、同意を得た。なお研究参加への同意が得られない場合でも希望があれば受検できることとした。

血液検査はHIV抗体抗原検査と梅毒抗体検査とし、HIV抗体検査は採血後、スクリーニング検査・確認検査を実施したのち、1週間後に結果を通知した。梅毒抗体検査も1週間後に結果を通知した。結果通知は個別に対面相談できる近隣の会議室を確保し、保健所職員が既存のマニュアルに準じ実施した。受検時に番号シールを血液検査結果と質問紙調査表紙に貼り付け、血液検査結果はIDと連結させ、保健所から分析担当者のみを開示されることとした。

本年度は昨年度に引き続き大阪市保健所との協働で3回実施し、新たに大阪府内の自治体で構成される予防週間実行委員会とも協働し、同様の仕組みで2回実施した。

4) 分析方法

本年度は2017年11月時点での検査会利用者におけるコホート登録者を対象に分析を進めた。また本研究で構築したコホート集団を対象に人年法を用いて、梅毒感染罹患率を推計した。単純集計には、SPSS23を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究の実施については名古屋市立大学看護学部倫理委員会の承認を得た。(ID:15014-2 2015年6月23日)また大阪青山大学倫理委員会の承認も得た。(ID:2906 2017年9月27日)

C. 研究結果

1) 無記名自記式質問紙調査による対象層の把握

検査会における対象集団の属性を把握するために、最終年度も継続して質問紙調査を5回実施(2015年6月n=160、2015年12月n=177、2016年6月n=156、2016年12月n=169、2017年6月n=162)した。全体の基本属性は大阪府在住63.1%、24歳以下19.8%、ゲイ83.9%、コミュニティセンターdista新規利用率13.3%、過去6ヶ月間のゲイ向け商業施設利用率74.3%、生涯HIV抗体検査受検率は75.2%であった。

初回の調査回答者(2015年6月、n=160)において、探索的因子分析を行い、因子負荷量を検討した結果、各3項目の4因子を抽出し、STIスティグマ(Cronbach's α =0.77、以下同)、検査に関わる忌避感(0.63)、検査に対する消極的態度(0.43)、検査の利用しにくさ(0.41)と命名した。生涯の検査経験とSTIスティグマ(p =0.03)、検査に関わる忌避感(p =0.01)、検査に対する消極的態度(p =0.03)が有意に関連しており、今後の受検意図とは消極的態度(p <0.01)が関連していた。係数がやや低い因子もあるが再現性はあり、0.6以上の因子では内的整合性は確保できた。

2017年までの5回の調査で経時的に比較したところ検査に対する消極的態度(p =0.03)とのみ関連しており、各回の平均値は5.45、5.62、5.22、5.12、5.43であった。一方でSTIスティグマについて統計的有意差はみられなかった(p =0.42)。

2) コミュニティセンターにおける血液検査会の実施

検査会は曜日を変えて初年度に4回、2年度目に5回した。最終年度は6回実施した。2017年11月までの結果概要は表1に示す。

3年間の累計で受検者数432人、はじめて本検査会を利用した人のうち指紋登録者割合71.6%、HIV陽性者数11人(2.5%)、梅毒陽性者(要治療)数19人(4.4%)であった。なお、HIV陽性者はHIV抗体抗原検査で、これまで未診断であった人であり、今回新たに感染が判明した人であることを結果告知時に確認している。また、本検査会では梅毒検査を受検せず、HIV抗体検査のみを受検することを希望する人もあり、梅毒陽性割合の算出には梅毒検査を受検した427人を対象とした。梅毒陽性はRPR陽性かつTP抗体陽性の人であり、治療中であることが分かっている場合は除いて集計した。

表1 検査会の実施概要(2017年12月時点)

	2015年度	2016年度	2017年度	累計
受検者数	127人	171人	134人	432人
指紋登録者	78.6%	67.6%	68.8%	71.6%
HIV陽性数(下段)割合	7人 5.5%	2人 1.2%	2人 1.5%	11人 2.5%
梅毒陽性数(下段)割合**	5人 4.0%	9人 5.3%	5人 3.7%	19人 4.4%

*HIV陽性は新規判明、梅毒陽性はRPR陽性かつTP抗体陽性。

**梅毒検査を受検した人を母数として算出した。

3年間検査会を継続し、2017年11月時点で登録者237人となった。コホート登録者における属性として、平均年齢は33.8±11.0歳(最少年齢17歳、最高年齢73歳)であり、年齢層別には20代が37.3%と最も多く、次いで30代23.7%、40代19.5%であった。大阪府在住71.2%、ゲイ82.6%、常勤(正規雇用)47.9%であった。また過去6ヶ月間のゲイ向け商業施設利用率は

82.2%であり、コミュニティセンターdistaの初来場者は46.2%であった。生涯の受検経験率は65.7%であり、過去6ヶ月間のアナルセックス経験者(165人、69.9%)のうち、一番最近のアナルセックスにおけるコンドーム使用割合は60.0%であった。

登録時の梅毒抗体陽性割合は7.2%、梅毒抗体抗原新規陽性割合は4.7%、HIV抗体抗原新規陽性割合は4.2%であった。

登録者のうち再受検者は43人(継続率18.1%)であり、本研究で構築したコホートにより、45.5人年(546人月)が追跡できた。このうち追跡中の新たなHIV抗体抗原新規陽性者は0人、梅毒抗体抗原新規陽性者は1人であった。HIV感染罹患率は計算できなかったが、人年法により梅毒感染罹患率は2.20%/年(95%信頼区間:-2.06%~6.46%)であった。

D. 考察

1) コミュニティセンター利用者調査

本研究では検査会における対象集団の属性を把握するために質問紙調査を実施した。コミュニティセンター利用者は過去6ヶ月間のゲイ向け商業施設利用率が74.3%と高く、立地条件を活かしMSMを対象とした予防啓発活動の推進に寄与していることが伺えた。また、HIV抗体検査受検行動に関連する尺度を用いた因子分析の結果から、「検査に対する消極的態度」が平均値5.62から5.12に低下した可能性が示された。コミュニティセンターdistaでの検査会との関連を示すには限界があるものの、2年間で検査に対する消極的態度が一旦低下した可能性が示された。

2) コミュニティセンターでの血液検査会とコホート構築

本研究ではコミュニティセンターdistaでの検査会を通して、日本で初めてとなるゲイコミュニティにおけるコホート集団を構築した。検査会利用者は累計432人となり、大阪府内保

健所の年間 MSM 受検者（約 700 人、2015 年のデータをもとに推定）と比べ、コミュニティセンターでの検査会は訴求力が高く、効果的であったと考える。検査会利用者は、対象集団となるコミュニティセンター利用者の属性と類似しており、HIV 陽性率 2.5%であったことから感染リスクの高い集団であったと言える。

現時点では HIV 感染の推計は困難であったが、梅毒感染の罹患率推計は 2.20%/年（95%信頼区間：-2.06%～6.46%）であった。コホート登録者における再受検率は低いが徐々に増加しており、今後も検査会を継続しデータを蓄積していくことができれば、予防啓発活動の浸透と成果を測る上で、有効な指標となりうると考える。

E. 結論

これまでに指紋登録した 237 人中 43 人の追跡ができ、MSM を対象とした血液検査と連動させた前向きコホート体制は構築できたと考える。登録者は現在も増加しつつあるが再受検者が少ないことが課題である。本検査会は大阪市と MASH 大阪（コミュニティセンター-dista）が協働し、研究としてコホートの仕組みを伴った形で、次年度以降も継続される見込みである。今後もデータを蓄積していくことで意義のある研究成果が得られると考える。

MSM を対象とした血液検査と連動させた前向きコホートの構築は国内で初めてであり、罹患率の推計に十分な数まで規模を拡大することができれば、将来的に新たに展開される予防介入の効果評価を効率的にすすめていく上で重要な基盤となり学術的意義がある。また本研究で実施するゲイコミュニティの中心にあるコミュニティセンターでの性感染症の検査会は、ゲイコミュニティにおいて彼らの生活の一部として検査を身近なものにし、定期的な検査行動の習慣化に寄与することも考えられ、大阪市保健所と協同して開始し、大阪府内の他の自治体からの協力も得られている。今後は事業化

の見通しであり、本研究の成果として社会的な意義も大きいと考える。

本研究では MSM をとりまく社会環境を考慮して、住所や氏名などの個人情報を得ることなくコホートを構築することを目指しており生体認証を採用している。生体認証はモンゴル・中国では MSM 対象の先行研究で活用されており、複数の地域や検査場所で展開し全体像を把握することも可能である。本研究における検査会やコホートの仕組みを活用すれば、大阪地域のみならず、他地域のゲイコミュニティの動向把握につながり、検査機会の拡大や検査行動を促進することが可能である。また大阪地域でも継続することにより、HIV および梅毒における新規罹患率の推定精度が上がるのが期待でき、MSM を対象とした予防啓発活動の評価指標の一つとなる。

国内では保健所における検査体制が整備されているが、当事者と協働したゲイコミュニティでの検査会から得られる知見は、保健所を利用しにくい地方地域に住む MSM やセックスワーカーや外国籍等のハイリスク層の集まる場所でも応用可能であり、個別施策層を対象にした取り組みとして展開していくことが可能である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

研究代表者
塩野徳史

和文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の

- 身近さの実態-2009年調査と2012年調査の比較- . 日本エイズ学会誌, 19(1), 16-23, 2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSMにおけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域. Vol. 32(5):1029-1038, 2016.
 - 3) Sherriff, N. Koerner, J. Kaneko, N. Shiono, S. Takaku, M. Boseley, R. Ichikawa, S. Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi: 10.1093/heapro/dav0969. 1-13, 2015.
 - 5) 塩野 徳史. エイズとコミュニティ-MASH大阪とは何か?. 第75回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム36「エイズをめぐる公衆衛生とLGBT当事者団体との連携」、2016年、大阪.
 - 6) 鬼塚 哲郎. MASH大阪のはじまりと10年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第75回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム36「エイズをめぐる公衆衛生とLGBT当事者団体との連携」、2016年、大阪.
 - 7) 安井 典子. 保健所とコミュニティ当事者との協働-コミュニティセンターでのHIV抗体検査-. 第75回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム36「エイズをめぐる公衆衛生とLGBT当事者団体との連携」、2016年、大阪.

口頭発表

国内

- 1) 塩野徳史. ゲイコミュニティにおけるHIV抗体検査 『これまで』と『これから』 「シンポジウム3 HIV将来予測と流行阻止」 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、2017年、東京.
- 2) 塩野徳史. HIV検査の受検阻害要因としてのスティグマ. シンポジウム4 「スティグマの払拭は誰が担うのか」 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、2017年、東京.
- 3) 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSMを対象とした予防啓発介入の開発と効果評価. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、2017年、東京.
- 4) 宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一. MSMにおける性交相手との出会いの場所と方法 - 年齢層による差異について -. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、2017年、東京.
- 8) 川畑 拓也, 小島 洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤 雅彦, 杉本 賢治, 高田昌彦, 田端 運久, 中村 幸生, 古林敬一, 清田 敦彦, 伏谷 加奈子, 塩野 徳史, 後藤 大輔, 町 登志雄, 柴田 敏之, 木下 優. 大阪府におけるMSM向けHIV/STI検査相談事業・平成27年度実績報告. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年、鹿児島.
- 9) 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志. 全国8都府県の保健所等と郵送HIV抗体検査受検者の特性について. 第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京.
- 10) 細井舞子, 安井典子, 青木理恵, 安保貴行, 松村直樹, 奥町彰礼, 廣川秀徹, 半羽宏之, 松本健二, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 塩野徳史. ゲイ・バイセクシュアル男性におけるHIV検査受検経験及び関連する要因.

第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。

- 1 1) 後藤大輔、町登志雄、宮田りりい、伴仲昭彦、鬼塚哲郎、塩野徳史、安井典子、細井舞子。コミュニティセンターdistaにおける HIV 抗体検査の意義。第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。
- 1 2) 町登志雄、後藤大輔、宮田りりい、伴仲昭彦、鬼塚哲郎、塩野徳史、安井典子、細井舞子。コミュニティセンターdista 来場者の特性。第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。
- 1 3) 伴仲昭彦、鬼塚哲郎、大畑泰次郎、塩野徳史、町登志雄、後藤大輔。コミュニティセンターdista における中高年層 MSM 来場者誘致プログラム「南界堂茶会」の効果評価。第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。
- 1 4) 塩野徳史、金子典代、市川誠一、伴仲昭彦、鬼塚哲郎、町登志雄、後藤大輔、宮田りりい。近畿地域在住の MSM

(Men who have sex with men) における初性交時の予防行動に関連した要因-10 年間の变化-。第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。

- 1 5) 川畑拓也、森治代、小島洋子、駒野淳、古林敬一、岩佐厚、田端運久、亀岡博、中村幸生、杉本賢二、近藤雅彦、高田昌彦、菅野展史、塩野徳史、柴田敏之。MSM 向け HIV 即日抗体検査における急性感染期の抗体陰性例の検出。第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015、東京。

H. 知的所有権の出願・

取得状況 (予定を含む)

- 1 . 特許取得状況
なし。
- 2 . 実用新案登録
なし。
- 3 . その他
なし。

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究

『dista でピタッとちえっくん』検査会の概要

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学/MASH 大阪）

研究協力者：松本健二（大阪市保健所感染症対策監）

半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）

安井典子、櫻井理恵、細井舞子、真木景子、

松村直樹（大阪市保健所感染症対策課）岡本香子（保健衛生検査所）

後藤大輔、町登志雄、宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

大畑泰次郎、伴仲昭彦（MASH 大阪）

鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）

研究要旨

背景：

これまで MASH 大阪は、大阪市内のゲイ向け商業施設に流入するゲイ・バイセクシュアル男性のセクシュアルヘルスの向上をミッションとして活動を展開してきた。先行研究によると検査行動や予防行動に一定の成果があったことが示されているが、45 歳以上の中老年層と 24 歳以下の若年層では、HIV 感染を含む性感染症の感染リスクが高い層であり、検査行動は低い割合でとどまっている。そこでゲイコミュニティにおける感染拡大を抑止することを目的に、コミュニティセンターでの検査会実施について 1 年かけて検討した。

コミュニティセンターdista 検査会の実施：

さまざまな介入活動が検査行動の促進に直接的に影響していない背景には、検査そのものに対するコミュニティの規範が関係していると考えた。HIV 抗体検査が保健所等で、無料匿名で受検できることは浸透しているが、時間的な制限や予約制等の仕組みだけではなく、心理的な面でもハードルが高い現状がある。潜在的ニーズや感染リスクに応じて検査行動を促進するためには、HIV 抗体検査を含む性感染症の検査が、彼らの生活の一部と感じられる規範を構築する必要があり、コミュニティセンターでの検査会は有効であると考えた。

既存の検査機会との違いは、次の 3 点である。ゲイコミュニティに向けたメッセージとしての検査会であり、検査機会の拡大が主要な目的ではないこと。検査自体はオープンスペースで実施するが、HIV 感染のカミングアウトの状況や HIV 感染に対するスティグマを考慮し、検査結果は個人情報として扱うこと。専門的な技術や知識を要する検査運営・管理は、行政が担う公衆衛生の役割であると位置づけ、行政との磐石な協働体制を構築することを目指した。

A. 実施（研究）の背景と目的

コミュニティセンターdistaでの検査会について、MASH 大阪では 2013 年 12 月から検討をはじめ 2014 年 1 月までに以下のことを考えた。

ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染動向は、中高年層では AIDS 発症でみつけるケースが多く、若年層では感染報告者数が増加していることが指摘されている。また HIV 陽性者の場合には、医療者との関係性にもよるが、他の性感染症検査を受検しにくいこともコミュニティセンター利用者の間で話されている。

WHO や CDC は、感染リスクの高い人（HIV 陽性者のパートナーや薬物使用者、不特定の相手とセックスする人、多人数の相手とセックスする人）は 6 ヶ月や 3 ヶ月毎の定期検査受検が推奨しており、日本の検査戦略は自発検査が中心におかれている。

これまで MASH 大阪は、大阪市内のゲイ向け商業施設に流入するゲイ・バイセクシュアル男性のセクシュアルヘルスの向上をミッションとして活動を展開してきた。先行研究によると検査行動や予防行動に一定の成果があったことが示されているが、45 歳以上の中高年層と 24 歳以下の若年層では、HIV 感染を含む性感染症の感染リスクが高い層であり、検査行動は低い割合でとどまっている。

大阪の-堂山、みなみ、新世界にある-ゲイ向け商業施設を利用する人はゲイ・バイセクシュアル男性に加えて、ハッテン場利用者（従業員も含む）、トランスジェンダー女性、トランスジェンダー男性、セックスワーカー、在日外国人、薬物使用者、HIV を持っている人など多岐にわたり、彼らを含めてコミュニティの規範は形成されていると言える。そこで、コミュニティセンターdistaで検査会を行う場合にはこういった多様な層を対象として受検しやすい環境を整える必要があると考えた。

HIV 感染動向をふまえて検査環境を省みると、近年でも MSM で HIV 感染が拡大しているに

も関わらず、「chot CAST なんば」の設置によって堂山近くに存在し MSM の受検割合も高かった土曜検査場が移転となり、現時点で近くの検査場は北区保健福祉センターのみとなった

このような背景のもと、コミュニティセンターdistaでの検査会は検査機会を増やすことにつながるとも考えたが、先行研究の結果では大阪市内の商業施設を利用する MSM は約 3 万人から 5 万人であると考えられ、そのすべてに検査機会を提供するようなキャパシティはないことが予想される。したがってコミュニティセンターでの臨時検査会は検査機会の拡大にはつながらないと言える。

一方で MASH 大阪は、検査会に関する検討を重ねる過程で、さまざまな介入活動が検査行動の促進に直接的に影響していない背景には、検査そのものに対するコミュニティの規範が関係していると考えた。

コミュニティセンター利用者やコミュニティのキーパーソンの語りから、HIV 抗体検査が保健所等で、無料匿名で受検できることは浸透しているが、時間的な制限や予約制等の仕組みだけではなく、心理的な面でもハードルが高い現状がある。そのため、HIV 抗体検査を含む性感染症の検査が彼らの生活の一部と感じられる、または性感染症の検査を身近なものと感じられる規範を構築していくことで、潜在的ニーズや感染リスクに応じた検査行動に変容していくと考えた。

検査に関する規範を構築するためには、検査が身近なものと感じられるメッセージを浸透させる必要がある。そのためにはゲイ向け商業施設の多い堂山で、利用者の多い時間帯に検査を実施し、検査そのものをランドマーク（検査を実施しているということ自体がメッセージ性をもつ）とすることで、検査受検へのバリアが低減すれば、保健所等の他の検査機会へも自発的につながると考えた。

MASH 大阪は、10 年前にコンドーム使用の規範を作るために、コンドームアウトリーチを展

開し、ゲイ向け商業施設の中のいろいろな場所にコンドームがある環境を意図的に作りだした。当時、コンドームは避妊具としての認識が強く、男性同性士の性行為では不要なものとされていたが、コンドームアウトリーチによって性感染症予防のために男性同士の性行為でも必要なものであるという規範を構築し、コンドーム使用行動を促進した。この事例をふまえて、検査行動に対する規範も「ハードルの高い検査」から「敷居を低くし、生活の一部」となるよう変容させていくことが必要であると考えた。

ただし、コミュニティセンターdistaで実施する検査会には友達や知り合い、セックスのパートナーと一緒に検査を受けることや、近くにいる場合が想定される。規範の変容のためには、その状況を避ける方法ではなく、その状況を受け入れることを推奨する必要がある。2015年1月に試験的に実施した検査会利用者の語りから、採血時にはMASH大阪のスタッフがいる事で安心感につながったことも報告された。

そこで検査自体はオープンスペースで実施するが、HIV感染のカミングアウトの状況や、HIV感染に対するスティグマを考慮し、検査結果は個人情報として扱う必要があると考えた。そのため結果告知時には、当事者に近いMASH大阪のスタッフが対応することは避け、陽性結果であった場合の状況を考えてプライバシーを十分に確保できる個室を準備し、支援体制や受診機関との連携体制を事前に整えておく必要があった。

また検査結果の信頼性や、陽性結果であった場合の医療とのつながりを担保する上で、行政との協働体制を構築する必要もあった。MASH大阪は当事者を中心としたネットワーク組織であり、運営には流動性を孕んでいる。コミュニティにおける検査行動の促進や検査環境の改善がMASH大阪のミッションであり、専門的な技術や知識を要する検査運営・管理は、行政が担う公衆衛生の役割であると位置づけ、行政と

の磐石な協働体制を構築することこそが、コミュニティ全体の利益につながると考えた。

B. 実施（研究）方法

背景をふまえ、大阪市保健所とMASH大阪で事前に協議を重ねた。

連携体制の構築まで

コミュニティの中で検査を実施することで、検査を身近に感じてもらうことを目指すのであれば、商業施設にも参画を促し、協働で実施することが望ましいという意見があり、検査受付、受検前の保健師ガイダンスはコミュニティの中の商業施設で行い、採血はdistaですることも提案された。しかし、行政との協働体制がまだ構築段階であることや、実際の業務量の把握が不明瞭であったことから、本研究ではコミュニティセンターdistaでの検査会を定着することを優先的な目標とした。

検査会は大阪市保健所の移動診療として扱われるため、医療行為にかかる従事者は大阪市保健所職員もしくは保健所が雇いあげする職員に限定される。従事者の確保から日程がある程度絞られてくる事となった。また、従事する人数を考えるとHIV担当者だけでは難しく、所管課全体でHIV対策に取り組むことを再確認することになった。

協力が必要な機関として、大阪市立総合医療センターや、HIV陽性者への支援に実績のある特定非営利活動法人CHARM、特定非営利活動法人ふれいす東京が挙げられ、大阪市保健所とMASH大阪が手分けして協力を依頼した。

また、実施にあたっては基本的に保健福祉センター等で実施しているイベント検査と同じ流れをとることにした。試験的に2014年1月に実施したdistaでの検査会の流れを振り返り、事故防止のため受検者の動線を工夫し、受検者が何度も行き来するような動線はとらないこと、採血するスペースを広くし接触な

どによる事故を防ぐようにした。配置については現地視察など綿密な打合わせを数回行った。

結果告知について

結果告知は MSM における陽性率の高さやコミュニティセンターdistaのキャパシティを考慮し、確認検査をふまえた結果を1週間後に告知することにした。設定されている結果告知日時に来られない受検者への対応として、北区保健福祉センター等の通常検査結果告知日を案内できるよう、北区保健福祉センターへも事前に協力を依頼した。

結果告知についてはプライバシーを配慮するため、個室を確保する必要があったが、コミュニティセンターdistaは2014年10月の縮小を契機に個室の確保が困難となったため、近隣の会議室を借用することにした。利用者が結果を受容するために十分な時間を確保し、他の利用者と顔を合わせる機会を極力減らすために、結果告知時間を1人15分~30分と想定し、受付1室と個室4室を準備した。受付では医師やカウンセラーに待機していただいた。

検査実施日時・期間について

4日間の実施は、採血者、医師の確保、専門職者等への謝金、会場の確保等の予算や調整が難しいことが話された。そこで段階的に実施することにし、最初の段階として3日間の実施を目標にすることでコンセンサスを得た。また連日での実施か、毎月1回の実施とするかも検討事項であったが、マンパワーの確保やコミュニティへのメッセージ性を考慮して、毎月1回の実施とした。

実施日時は、先行研究で明らかになっているニーズを考慮し、土日または平日夜間とし、実施後、開催日時と受検者数・受検層の関連を評価するべきであると考えた。そこで本年度は月曜夜間、土曜日、日曜日と曜日を変えて実施することにした。コミュニティセンターdistaでのイベント日程を考慮し、以下の日程とした。

第1回目

採血日：8月31日(月)15:00~19:00

結果通知日：9月7日(月)15:00~19:00

第2回目

採血日：9月27日(日)14:00~18:00

結果通知日：10月4日(日)14:00~18:00

第3回目

採血日：10月17日(土)14:00~18:00

結果通知日：10月24日(土)14:00~18:00

さらに3回の実施状況をふまえ、振り返りを行った後に、予算と人材を調整し1月に第4回目の検査会を追加で行った。

第4回目

採血日：1月16日(土)14:00~18:00

結果通知日：1月23日(土)14:00~18:00

さらに平成29年度には定期的な検査行動を推進する目的で、2ヵ月に1回の開催となり、年間6回の検査会を行った。

コホートシステムについて

指紋認証の仕組みについては名古屋市立大学倫理委員会の承認を得た(ID番号15014-22015年6月23日)のち、大阪市保健所・MASH大阪と協議し了承を得た。指紋をとることに抵抗を感じる受検者も多いという意見もあった。また、大阪市保健所の通常の検査では指紋認証システムは利用されていないため、受検者が混乱する場合も想定された。そのため、指紋認証を任意とし、本人の了解を得て登録を促す程度にし、登録がなくても受検希望は確保した。また登録は任意であることを周知徹底し、検査会に関わる従事者間でも確認をした。当日配布するファイルスリーブにも明記し、検査の流れや基礎知識、支援情報と共に周知するようにした。

なお、平成 29 年には大阪青山大学倫理委員会の承認も得た。(ID:2906 2017 年 9 月 27 日)

広報について

広報では検査の必要性や HIV 感染の動向の説明に加えて、保健所と同じ方法で無料・匿名の検査が dista で受けられること、予約不要であるが、人数が超過したときはお断りすることがあること、梅毒検査も一緒に受けられること、当日、夕方 5 時から dista は通常通り利用できることを明記した。また、検査についての疑問や不安があるときの相談先についても併せて広報した。

インターネットでは指紋認証の方法と、研究目的としてコミュニティの中の感染動向を把握すること、その必要性について説明した。また検査の流れの中に検査不安や感染不安を抱える場合の相談先を紹介するようにした。

また「HIV とエイズの違い」や「HIV 検査の種類」、「ウィンドウ・ピリオド」、「性感染症」、「HIV の感染がわかった時」、「Safer SEX」などの基礎知識についても説明し、適宜、不安を抱える場合の相談先や支援情報を紹介し、HIV 感染者や周囲の人の手記(特定非営利活動法人ぐれいす東京ホームページ)や、HIV 感染後の生活に関する統計的な情報(Futures Japan HIV 陽性者のための総合情報サイト)を紹介することで、HIV 感染のリアリティを涵養した。

広報では年々メッセージ性を状況に合わせて変化させた。当初は堂山(ゲイ向け商業施設の集まる堂山という場所で HIV 抗体検査が受検できることをメインメッセージとし、その後、定期的に HIV 抗体検査を受検することをメインメッセージとした。

平成 27 年度 広報

堂山で
エイズ検査が
受けられます。

くわしくは
webで!

採血日 場所: dista
8/31 月 15:00-19:00
9/27 日 14:00-18:00
10/17 土 14:00-18:00

結果通知 場所: 堂山周辺
9/7 月 15:00-19:00
10/4 日 14:00-18:00
10/24 土 14:00-18:00

dista

詳しくは
webで!

3回
community center
dista
ピカッとちえっくん!
エイズ
&
梅毒検査

dista でちえっくんは・・・

- *保健所と同じ方法で無料・匿名の検査が dista で受けられます。
- *予約不要ですが、人数が超過したときはお断りすることがあります。
- *梅毒検査も一緒に受けられます。
- *当日、17 時から dista は通常通り利用できます。
- *検査についての疑問や不安があるときはお話を伺います。dista までお問い合わせください。

検査に関するお問い合わせ
「community center dista」
大阪市北区堂山町 17-5 巽ビル 4F
tel:06-6361-9300 (17:00 - 22:30)

採血会場へのアクセス

主催: MASH 大阪 (community center dista) / 大阪市保健所 / 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「アイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究」
協力: 公益財団法人エイズ予防財団

この資料は、厚生労働省エイズ対策政策研究事業「アイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究」に基づき作成されました。

平成 28 年度 広報

dista. ビックと
ちまつくん!
エイズ
梅毒 検査

採血日	結果通知
7/30 ± 13:00 - 16:00 場所: dista	8/6 ± 13:00 - 16:00 場所: 堂山周辺

illustr:TATSUYA Naoki

平成 29 年度 広報

dista. ビックと
ちまつくん!
HIV
& 梅毒 検査

堂山で
HIV と梅毒の
検査会を実施!!

CHECK!!

採血日

5/14 日 17:00-20:00
community center dista

※検査の結果は、1週間後の受取です。

illustr:TATSUYA Naoki

dista. ビックと
ちまつくん!
エイズ
梅毒 検査

採血日	結果通知
7/30 ± 13:00 - 16:00 場所: dista	8/6 ± 13:00 - 16:00 場所: 堂山周辺

illustr:TATSUYA Naoki

dista. ビックと
ちまつくん!
HIV
& 梅毒 検査

年に1回は
検査を
受けよう!

3/10 ± 17:00-20:00
community center dista

※検査の結果は、1週間後の受取です。

illustr:TATSUYA Naoki

その他

在日外国人の利用を想定し、英語・中国語の通訳を特定非営利活動法人 CHARM に依頼した。

MSM における生涯受検割合は高く、再受検者も多いことを前提に、検査の敷居を下げる工夫として、事前チェックシートを作成し、検査受検に必要な最低限の内容とした。この事前チェックシートは保健師ガイダンスで活用された後は、情報として利用者自身で保管する仕組みとした。

C. 実施（研究）結果と考察

1) 採血日 流れと各部署での役割-

【受付】

MASH 大阪スタッフ 2 名：誘導と説明

ファイルスリーブには結果返し会場 MAP/事前チェックシート/検査申込書/アンケートを封入して準備した。

検査申込書は大阪市保健所で通常利用されているもので、4 枚複写となっている。

(1 枚目：結果引換書・2 枚目保健所控え・3 枚目：本人通知用・4 枚目検体シール)

ファイルスリーブを手渡し、封入されている検査申込書と同じ No が記載されている

「受検 ID ラベル」を手渡す。

本検査会「dista でピタッとちえっくん」の説明と同意、検査申込書の記入を促す。

ピタッとちえっくんで発行される個別認証シールを「検査申込書(保健所控え)」・

「アンケート用紙」・「ファイルスリーブ」に貼る。

ピタッとちえっくん・事前チェックシート・検査申込書が書けた人から保健師ガイダンスへ案内する。

外国人対応は、通訳が活用できるので適時対応する。場合によっては英語の申込用紙(4 枚複写)を利用する。

“dista de ピタッとちえっくん” 検査チェックシート

以下の内容を確認して、チェックをお願いします。

1、ウインドウ パリオドについて

この検査では 8 週間前までの感染の有無がわかります。
ウインドウパリオドについて理解できましたか？

HIV 抗原抗体検査では、採血した血液中に HIV を形成する「抗原」、HIV に対する「抗体」を同時に検出する検査方法です。
HIV に感染すると、体内でまず HIV が増え、その後 HIV に対する「抗体」が作られます。
血液検査で「HIV 陽性」との結果が出るまでには、約 8 週間かかると言われています。
なので、正確な検査結果を知るためには、感染が疑われるセックスをしてから 8 週間たって検査を受けることが勧められています。
このように、感染してから抗体ができるまでの 8 週間程の期間のことを「ウインドウパリオド」といいます。

あかった / くあしく聞く

2、HIV けんさのしゅるいについて

本日の検査の流れについて理解できましたか？

HIV 抗体検査は、スクリーニング検査と確認検査という 2 段階の検査で採取した血液を調べます。
まずは、スクリーニング検査で HIV に感染しているかどうかのふるい分けをします。
スクリーニング検査で反応が出なければ「HIV 検査陰性（HIV に感染していない）」とします。
反応が出た場合は、今度は感染しているかどうかをもう一度調べるために、確認検査をします。
そこで反応が出れば、「HIV 検査陽性」とします。通常の検査では、検査してから結果の告知までに 1 週間かかります。

あかった / くあしく聞く

3、ちゅうしゃのけいけんについて

これまでに、注射の針や血を見て具合が悪くなったりした事がありますか？

気分が悪くなった人のための休憩スペースがあります。採血のときに気分が悪くなった場合はスタッフへお伝え下さい。

ない / ある

裏面に続きます。→

4、りょうできる相談について

大阪で利用できる相談について理解しましたか？

対面相談・電話相談を利用することができます。
検査の結果で HIV に感染していることが分れば、検査機関で相談をしたり、病院の紹介を受けて、これからの生活について考えることになります。
その上で不安なことや困ったことがある場合には相談できる機関が用意されています。
そういった相談機関には本人だけでなく、周りの人たちも利用できるものがあります。
また、対面での相談や電話相談などもありますので、自分の利用しやすい相談方法や時間を選択できるようになっています。また、同性者同士の交流ができる対面でのミーティングや WEB サイトなどもあるので、相談や情報交換などがあったときに利用できます。

相談先について
○community center dista
性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方はご相談ください。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいます。
住所：大阪市北区堂山町 17-5 舞ビル 4F ☎：06-6361-9300 [水曜～月曜 17:00～22:30(火曜休館)]

○HIV サポートライン関西 HIV 陽性の人とパートナー一家族のための電話相談
HIV 陽性の人、またスクリーニング検査で要確認となった人の相談に電話で対応します。
HIV に関する疑問や心配ごとがある方にも利用いただけます。
☎ 06-6358-0638 [月曜～水曜 午後 7 時～午後 9 時(祝休)]
web: www.charm-japan.com/hiv-supportline/

あかった / くあしく聞く

5、けっかの受け取りについて

検査の結果は、
10月24日に、TKP 大阪梅田駅前ビジネスセンター、で受取る事ができますか？

今日の検査結果は、受け取りの予約をした時間帯に来て頂く事になります。
このあと、受付で時間帯を予約してください。
もし、予約日に来れなかった場合は、北区保健福祉センターで結果を受け取る事が可能ですが、その場合はあらかじめ予約をとる必要があります。
大阪市保健所 06-6647-0957 朝 9 時～夕方 5 時、
またはコミュニティセンター dista 06-6361-9300 火曜日を除く夕方 5 時～夜 11 時へ、ご連絡ください。

あかった / くあしく聞く

全てのチェックが完了したら、受け取りの予約に進んで下さい。



必要物品

検査申込書、筆記用具、ファイルスリーブ、指紋認証の機材

【保健師ガイダンス】

保健師 2 名：インフォームドコンセントと結果日の予約

受検者とチェックシートを一緒に確認し、事前ガイダンス資料を参考に検査内容、ウィンドウ・ピリオド等を伝え、受検意思の確認をする。

チェックシートは本人へ返す。

検査申込書に不備（検査項目・年齢・性別などの記載漏れがないか）を確認する。

「ピタッと」の個別認証シールが貼っているか確認する。登録について同意した人のみが貼っている。その場合検査申込書（保健所控え）・アンケート用紙・ファイルスリーブの 3 箇所に貼られているかを確認する。

結果返しの希望時間を確認し、結果予約表に受検 ID ラベルを保健師が貼る。結果予約は 1 人 15 分を目安とし、1 時間に 4 人 × 4 室とし、予備 1 人と設定した。

検査申込書より結果引換書を切り離し、結果時間を記載する。

結果返しの場所を再度確認する。

検査引換書は、結果告知時に必要である事を伝え、鞆等にしまってもらよう促す。

設定した結果告知日に来られないとあらかじめ申し出があった場合には、結果告知が北区保健福祉センターとなることを説明し、了解をえられれば、日程を調整し北区保健福祉センター結果予約表に記載する。

結果告知予備を北区保健福祉センターの設定をしていたが、受検者によっては北区保健福祉センターの日時と合わない人もあったため、大阪市保健所（阿倍野区）での結果告知も選択できるように調整した。

採血管に検査申込書 4 枚目（検体シール）を貼り、受検者に採血管・残りの検査申込書を持たせて採血室へ案内する。

必要物品

受検 ID ラベル事前ガイダンス資料、保健指導資材等、採血管、筆記用具、カレンダー、北区保健福祉センター案内用紙（通常検査場案内図）、結果予約表、北区保健福祉センター結果予約表



【採血】

採血従事者 2 名および医師、検査員

採血管と、検査申込書（保健所控え・本人通知用）の名前と検査項目を確認する。

5cc の採血を行い、止血場所へ案内する。
気分不良者が出た場合は、保健場所へ案内し、保健所事務職員および医師に対応を依頼する。

必要物品

採血管、5cc シリンジ・22G 注射針、23G 翼状針、エタノール、綿花、綿花入れ、アメジストコットン、トレイ、駆血帯、止血絆創膏、止血バンド、医療廃棄缶（20L 小型）、カネパス、膿盆、ディスポ手袋、試験管たて、採血枕、ラバーシーツ、ビニール袋、バスタオル、タオル、次亜塩素酸溶液ごみ袋、ボールペン

【止血場所】

保健所事務職員 1 名：止血確認とアンケート依頼および回収

5 分ほどの止血を促す。

止血の間、アンケートを記載してもらおうよう依頼する。

気分不良者が出た場合は、保健場所に案内し、医師が気分不良者に対応する。

止血バンドを返却してもらう。

アンケートを回収する。

必要物品

アンケート、アンケート記載板、アンケート記載用ボールペン、アンケート回収箱、止血バンド回収かご、気分不良者用血圧計



【その他の事務等】

- 検査依頼書の作成（保健所事務職員）
- 検体数と検査依頼書の内容を確認。（保健所事務職員・検査員）
- 検体・検査依頼書を保健衛生検査所へ当日に搬送し、スクリーニング検査担当に手渡す（検査員）
- 結果予約表のコピーを MASH 大阪より受け取る。結果告知日までの間に予約変更の連絡を MASH 大阪が受けた場合は、その都度、大阪市保健所へ連絡してもらう。
- 検査結果の通知の流れ、個人情報としての取り扱いは大阪市保健所の HIV 等検査の流れに準じ、検査結果・報告書はスクリーニング検査機関より感染症対策課あてに送付される。
- 結果の交付書類を作成する（保健所事務）
- HIV 陽性判明の有無を大阪市保健所より、特定非営利活動法人 CHARM に連絡し、カウンセラー派遣調整を行う。

必要物品

検査依頼書、保冷バック、保冷剤

2) 結果告知日 流れと各部署での役割-

開始時間の 30 分前に集合する。従事する保健師は原則 4 名を確保するが、受検人数や、陽性判明者の有無により適時調整する。

【受付】

保健所事務職員・MASH 大阪スタッフ

* 4 回目以降は保健所事務職員のみで対応

受検者から検査引換書を受け取る。

控室に保管している受検結果封筒と、検査申し込みを照らしあわせ、確認する。

保健師に引き継ぐ。

結果予約表に来場した事をチェックする。陽性判明者が来場した場合には保健師へ引き継いだ後、待機しているカウンセラーに連絡する。

必要物品

結果封筒、結果予約表、筆記用具

【結果説明】

保健師または医師

検査結果の封筒と申込書が同じであることを本人にも確認してもらい、本人に開封してもらうか、了解を得て開封する。

リスクリダクション等、必要に応じて保健指導を行う。

HIV 陽性判明者の場合、医師より告知を行う。告知を行った医師は紹介状を作成する。医療機関への予約は当日取れないため、連絡先を確認し、週明けに予約を取る、もしくは予約なく受診してもらう（予約がなくとも受診できる方法を説明する）

その後、カウンセラーへ引き継ぐ。

告知を行った医師は、発生届を作成し、提出する。

その他対応は大阪市保健所の陽性告知マニュアルに準じる。

必要物品

保健指導資料、筆記用具

陽性判明告知時：発生届、紹介状、封筒、筆記用具、たんぽぽ(支援情報が掲載された資料)、CBO 関連の啓発資料、病院一覧
エイズ専門相談記録票

【その他】

- 結果告知状況は週明けに MASH 大阪にメールで情報を共有する。
- 北区保健福祉センターに結果の交付を依頼する場合には、別途同センターへ依頼文を作成する。

3) 検査会実施後の意見交換会

初年度には3回の実施状況をふまえ、2015年12月25日に大阪市保健所とMASH 大阪で振り返りを行い、改善点を抽出した。また2016年1月29日にも振り返りを行い、次年度に向けて改善点を検討した。ここではその内容について報告する。

保健師ガイダンス時の配置では隣の会話が気になったという意見があった。そのため配置を隣接させず、距離や利用者が座る向きを互い違いになるよう配置しなおした。(右図参照)

保健師ガイダンス時は受検者からの相談が多く、HIV感染症や性感染症、セーフターセックスについての相談が気軽にされている雰囲気であった。そのため「distaでピタッとちえっくん」の保健師ガイダンスは検査説明の場というだけではなく、受検者にとっては普段から気になっている様々な疑問を、専門職者に尋ねやすく、不安を低減する機会としても位置づける事ができる。

あわせて、結果予約表も大きいと他の利用者に見えてしまい、偏った時間帯に集中してしま

う傾向があったため、A4サイズに縮小したものを作成し、保健師が記録をつける事になった。

結果告知の予約時間は原則採血に来た時間とするが、希望の時間が重なった場合には保健師間で調整し、結果予約の時間を分散するように工夫することになった。

当初、結果告知時に受付にのみ、MASH 大阪スタッフも従事していた。プライバシー保護を考慮して、常勤スタッフやゲイ男性ではなく、女性スタッフに依頼していたが、受検者からMASH 大阪の関係者というだけでやや気になるという意見があった。そのため、4回目の検査会から、結果告知は受付もふくめて大阪市保健所の職員のみで対応することになった。

資料について

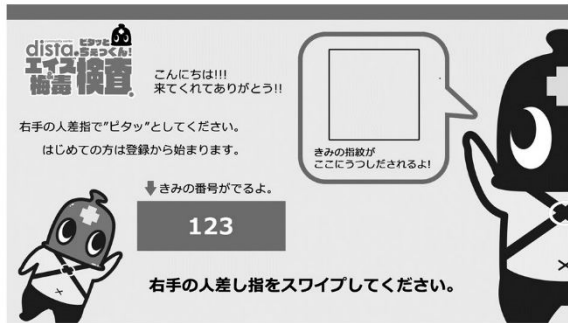
在日外国人の受検者が数名いたが、事前チェックシートが日本語だったため、スムーズに説明できなかった。そのため他言語版の事前チェックシートを作成する必要がある。

指紋認証について

初年度1回目から3回目からの受検者数は当初の目標より少なかったが、4回目には52人の利用があったことから、指紋認証の導入によって検査の敷居が高まった可能性は少ないと考えられる。指紋の登録時にコミュニティセンターdistaだから了承すると語る受検者も多く、MASH 大阪とコミュニティとの信頼関係が構築されていることが重要な要素となっていると考えている。1月の指紋登録者割合が低い背景にはマイナンバー制の導入で個人情報保護への意識が高くなったことが考えられ、今後は依頼時に不安を払拭できるよう、より詳細に説明する必要がある。しかし、自由記述の結果では本検査会に対し「利便性が良い」「安心できる」などの記述のほか、指紋認証の導入によって「定期的な受検につながる」「受検履歴がわかってよい」などの記述がみられ、検査の敷居が高まった可能性は少ないと考えられる。指紋の

登録時にコミュニティセンターdistaだから了承すると語る受検者も多く、MASH 大阪とコミュニティとの信頼関係が構築されていることが重要な要素となっている。

図 指紋認証画面



D. まとめ

初年度には血液検査と連動させたゲイコミュニティにおけるコホート体制の構築とコミュニティセンターdistaにおける検査会の体制の構築はできた。

検査会利用者は累計 432 人となり、大阪府内保健所の年間 MSM 受検者（約 700 人、2015 年のデータをもとに推定）と比べ、コミュニティセンターでの検査会は訴求力が高く、効果的であったと考える。検査会利用者の属性は資料として表 1 に、広報の対象となったコミュニティセンター利用者の属性は表 2 に示した。

国内では保健所における検査体制が整備されているが、当事者と協働したゲイコミュニティでの検査会から得られる知見は、保健所を利用しにくい地方地域に住む MSM やセックスワーカーや外国籍等のハイリスク層の集まる場所でも応用可能であり、個別施策層を対象にした取り組みとして展開していくことが可能である。

図 「dista でピタッとちえっくん」の流れ



表 1-1 検査会利用者における属性

	年			合計 n=428	Pearsonの カイ ² 乗	
	2015年 n=75	2016年 n=177	2017年 n=176			
月						
	1月	0 0.0%	50 28.2%	43 24.4%	93 21.7%	0.00
	5月	0 0.0%	0 0.0%	47 26.7%	47 11.0%	
	7月	0 0.0%	47 26.6%	30 17.0%	77 18.0%	
	8月	25 33.3%	18 10.2%	0 0.0%	43 10.0%	
	9月	27 36.0%	0 0.0%	25 14.2%	52 12.1%	
	10月	23 30.7%	26 14.7%	0 0.0%	49 11.4%	
	11月	0 0.0%	36 20.3%	31 17.6%	67 15.7%	
居住地*						
	大阪市		40 43.5%	81 46.0%	121 45.1%	0.70
	堺市		0 0.0%	4 2.3%	4 1.5%	
	高槻市		2 2.2%	2 1.1%	4 1.5%	
	東大阪市		2 2.2%	3 1.7%	5 1.9%	
	豊中市		4 4.3%	8 4.5%	12 4.5%	
	枚方市		2 2.2%	2 1.1%	4 1.5%	
	上記を除く大阪府内		17 18.5%	28 15.9%	45 16.8%	
	その他		25 27.2%	44 25.0%	69 25.7%	
	無回答		0 0.0%	4 2.3%	4 1.5%	
居住地						
	大阪府	53 70.7%	129 72.9%	127 72.2%	309 72.2%	0.93
	兵庫県	13 17.3%	29 16.4%	27 15.3%	69 16.1%	
	京都府	4 5.3%	5 2.8%	4 2.3%	13 3.0%	
	奈良県	1 1.3%	2 1.1%	6 3.4%	9 2.1%	
	滋賀県	1 1.3%	2 1.1%	2 1.1%	5 1.2%	
	和歌山県	0 0.0%	3 1.7%	2 1.1%	5 1.2%	
	その他	3 4.0%	7 4.0%	8 4.5%	18 4.2%	
年齢層						
	24歳以下	17 22.7%	26 14.7%	31 17.6%	74 17.3%	0.06
	25-34歳	30 40.0%	64 36.2%	56 31.8%	150 35.0%	
	35歳以上	28 37.3%	70 39.5%	67 38.1%	165 38.6%	
	無回答	0 0.0%	17 9.6%	22 12.5%	39 9.1%	

* 項目のなかった時期もあり、総数は異なる。

表 1-2 検査会利用者における属性

	年			合計 n=428	Pearson の カイ ² 乗
	2015年 n=75	2016年 n=177	2017年 n=176		
あなたは以下のどれにあてはまりますか？					
ゲイ（同性愛者）	61 81.3%	129 72.9%	127 72.2%	317 74.1%	0.40
バイセクシュアル（両性愛者）	10 13.3%	37 20.9%	41 23.3%	88 20.6%	
ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0 0.0%	1 0.6%	1 0.6%	2 0.5%	
わからない	3 4.0%	4 2.3%	1 0.6%	8 1.9%	
決めたくない	1 1.3%	1 0.6%	0 0.0%	2 0.5%	
その他	0 0.0%	2 1.1%	1 0.6%	3 0.7%	
無回答	0 0.0%	3 1.7%	5 2.8%	8 1.9%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？					
一人暮らし	38 50.7%	75 42.4%	93 52.8%	206 48.1%	0.16
親や兄弟・姉妹と同居	27 36.0%	73 41.2%	70 39.8%	170 39.7%	
同性のパートナーと同居	4 5.3%	9 5.1%	4 2.3%	17 4.0%	
同性の友達と同居	4 5.3%	7 4.0%	2 1.1%	13 3.0%	
異性のパートナーと同居	2 2.7%	10 5.6%	4 2.3%	16 3.7%	
異性の友達と同居	0 0.0%	2 1.1%	0 0.0%	2 0.5%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？					
常勤(正規雇用)	41 54.7%	93 52.5%	87 49.4%	221 51.6%	0.69
常勤（非正規雇用）	7 9.3%	17 9.6%	22 12.5%	46 10.7%	
パートタイマー	3 4.0%	10 5.6%	2 1.1%	15 3.5%	
アルバイト	5 6.7%	16 9.0%	17 9.7%	38 8.9%	
経営者	3 4.0%	4 2.3%	4 2.3%	11 2.6%	
学生	11 14.7%	19 10.7%	28 15.9%	58 13.6%	
その他	5 6.7%	15 8.5%	13 7.4%	33 7.7%	
無回答	0 0.0%	3 1.7%	3 1.7%	6 1.4%	

表 1-3 検査会利用者における属性

	2015年		年		2017年		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=75		2016年 n=177		n=176		n=428		
過去6ヵ月間の商業施設などの利用（複数回答）									
過去6ヵ月間の商業施設利用(再掲)	67	89.3%	128	72.3%	139	79.0%	334	78.0%	0.01
ゲイバー	51	68.0%	96	54.2%	98	55.7%	245	57.2%	0.18
ゲイナイト	23	30.7%	38	21.5%	47	26.7%	108	25.2%	0.26
ゲイショップ	23	30.7%	31	17.5%	48	27.3%	102	23.8%	0.05
ゲイ向けサークル	7	9.3%	18	10.2%	19	10.8%	44	10.3%	0.58
ゲイ向け合コン	3	4.0%	2	1.1%	5	2.8%	10	2.3%	0.30
mixiなどのSNS	24	32.0%	56	31.6%	63	35.8%	143	33.4%	0.45
PC出会い系サイト	9	12.0%	25	14.1%	25	14.2%	59	13.8%	0.55
携帯出会い系サイト	24	32.0%	25	14.1%	34	19.3%	83	19.4%	0.01
エロ系SNS	8	10.7%	13	7.3%	12	6.8%	33	7.7%	0.45
ゲイ向けアプリ	59	78.7%	116	65.5%	122	69.3%	297	69.4%	0.18
ゲイの乱パ	3	4.0%	5	2.8%	11	6.3%	19	4.4%	0.26
有料のハッテン場	42	56.0%	75	42.4%	100	56.8%	217	50.7%	0.02
野外のハッテン場	9	12.0%	15	8.5%	21	11.9%	45	10.5%	0.40
ハッテン場で有名な公共施設	20	26.7%	42	23.7%	39	22.2%	101	23.6%	0.54
いずれもなし	1	1.3%	7	4.0%	6	3.4%	14	3.3%	0.42
今日を除いて、これまでにdista(ディスタ)を訪れたことがありますか？									
過去6ヵ月以内に訪れた	26	34.7%	65	36.7%	66	37.5%	157	36.7%	0.69
過去6ヵ月より以前に訪れた	18	24.0%	39	22.0%	45	25.6%	102	23.8%	
訪れたことはない（はじめて訪れた）	31	41.3%	70	39.5%	60	34.1%	161	37.6%	
無回答	0	0.0%	3	1.7%	5	2.8%	8	1.9%	
「distaでピタッとちえっくん」についてお伺いします。今後も利用したいと思いますか？*									
また利用したい			81	89.0%	156	88.6%	237	88.8%	0.10
もう利用したくない			1	1.1%	2	1.1%	3	1.1%	
無回答			9	9.9%	18	10.2%	27	10.1%	

* 項目のなかった時期もあり、総数は異なる。

表 1-4 検査会利用者における属性

	年						合計 n=428	Pearson の カイ ² 乗	
	2015年 n=75		2016年 n=177		2017年 n=176				
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?									
ある	52	69.3%	130	73.4%	137	77.8%	319	74.5%	0.14
ない	21	28.0%	46	26.0%	39	22.2%	106	24.8%	
無回答	2	2.7%	1	0.6%	0	0.0%	3	0.7%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?									
ない・無回答	23	30.7%	47	26.6%	39	22.2%	109	25.5%	0.31
1回・2回	26	34.7%	58	32.8%	52	29.5%	136	31.8%	
3回以上ある	26	34.7%	72	40.7%	85	48.3%	183	42.8%	
1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?									
とても満足	63	84.0%	141	79.7%	149	84.7%	353	82.5%	0.11
やや満足	12	16.0%	21	11.9%	21	11.9%	54	12.6%	
やや不満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.2%	
とても不満	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	
無回答	0	0.0%	14	7.9%	5	2.8%	19	4.4%	
2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?									
とても満足	61	81.3%	137	77.4%	149	84.7%	347	81.1%	0.12
やや満足	12	16.0%	22	12.4%	18	10.2%	52	12.1%	
やや不満	2	2.7%	3	1.7%	4	2.3%	9	2.1%	
とても不満	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	
無回答	0	0.0%	14	7.9%	5	2.8%	19	4.4%	
3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?									
とても満足	55	73.3%	125	70.6%	144	81.8%	324	75.7%	0.02
やや満足	18	24.0%	29	16.4%	24	13.6%	71	16.6%	
やや不満	2	2.7%	8	4.5%	3	1.7%	13	3.0%	
とても不満	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	
無回答	0	0.0%	14	7.9%	5	2.8%	19	4.4%	
4) プライバシ 保護についてはどうでしたか?									
とても満足	46	61.3%	109	61.6%	125	71.0%	280	65.4%	0.01
やや満足	22	29.3%	37	20.9%	32	18.2%	91	21.3%	
やや不満	7	9.3%	13	7.3%	14	8.0%	34	7.9%	
とても不満	0	0.0%	3	1.7%	0	0.0%	3	0.7%	
無回答	0	0.0%	15	8.5%	5	2.8%	20	4.7%	

* 項目のなかった時期もあり、総数は異なる。

表 1-5 検査会利用者における属性

	2015年		年		2017年		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=75		2016年 n=177		n=176		n=428		
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか?									
ある	71	94.7%	164	92.7%	167	94.9%	402	93.9%	0.59
ない	2	2.7%	11	6.2%	7	4.0%	20	4.7%	
無回答	2	2.7%	2	1.1%	2	1.1%	6	1.4%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか?									
現在～過去6ヵ月間の間	54	72.0%	120	67.8%	133	75.6%	307	71.7%	0.25
過去6ヵ月間～過去1年間の間	3	4.0%	12	6.8%	7	4.0%	22	5.1%	
1年以上前	12	16.0%	29	16.4%	22	12.5%	63	14.7%	
覚えていない	1	1.3%	2	1.1%	4	2.3%	7	1.6%	
生涯なし	2	2.7%	13	7.3%	9	5.1%	24	5.6%	
無回答	3	4.0%	1	0.6%	1	0.6%	5	1.2%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか?									
彼氏や恋人	14	18.7%	36	20.3%	27	15.3%	77	18.0%	0.07
友達やセクフレ	26	34.7%	57	32.2%	71	40.3%	154	36.0%	
その場限りの相手	30	40.0%	62	35.0%	67	38.1%	159	37.1%	
その他	0	0.0%	8	4.5%	1	0.6%	9	2.1%	
生涯なし	2	2.7%	13	7.3%	9	5.1%	24	5.6%	
無回答	3	4.0%	1	0.6%	1	0.6%	5	1.2%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか?									
使った	42	56.0%	101	57.1%	99	56.3%	242	56.5%	0.61
使わなかった	23	30.7%	46	26.0%	56	31.8%	125	29.2%	
覚えていない	5	6.7%	10	5.6%	10	5.7%	25	5.8%	
生涯なし	2	2.7%	13	7.3%	9	5.1%	24	5.6%	
無回答	3	4.0%	7	4.0%	2	1.1%	12	2.8%	
これまでにかかったことがある性感染症はありますか?									
梅毒	5	6.7%	16	9.0%	17	9.7%	38	8.9%	0.63
A型肝炎	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	2	0.5%	
B型肝炎	5	6.7%	12	6.8%	11	6.3%	28	6.5%	0.74
C型肝炎	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	
クラミジア	4	5.3%	10	5.6%	13	7.4%	27	6.3%	0.61
尖圭コンジローマ	4	5.3%	6	3.4%	13	7.4%	23	5.4%	
淋病	2	2.7%	13	7.3%	7	4.0%	22	5.1%	0.30
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
赤痢アメーバ	1	1.3%	4	2.3%	1	0.6%	6	1.4%	0.45
毛じらみ	17	22.7%	48	27.1%	36	20.5%	101	23.6%	
性器ヘルペス	1	1.3%	2	1.1%	2	1.1%	5	1.2%	0.73
その他	2	2.7%	1	0.6%	1	0.6%	4	0.9%	
いずれもない	37	49.3%	88	49.7%	92	52.3%	217	50.7%	0.57
これまでにかかったことがある性感染症はありますか? (再掲)									
いずれかあり	30	40.0%	77	43.5%	65	36.9%	172	40.2%	0.45
いずれもない	45	60.0%	100	56.5%	111	63.1%	256	59.8%	

表 2-1 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
distaを利用した曜日															
月曜日	19	11.9%	9	5.1%	7	4.5%	6	3.6%	10	6.2%	4	1.9%	55	5.3%	<0.01
火曜日	0	0.0%	6	3.4%	2	1.3%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	10	1.0%	
水曜日	13	8.1%	12	6.8%	10	6.4%	21	12.4%	8	4.9%	10	4.8%	74	7.2%	
木曜日	15	9.4%	18	10.2%	20	12.8%	27	16.0%	25	15.4%	13	6.2%	118	11.4%	
金曜日	22	13.8%	34	19.2%	20	12.8%	34	20.1%	37	22.8%	67	31.9%	214	20.7%	
土曜日	64	40.0%	80	45.2%	70	44.9%	54	32.0%	50	30.9%	78	37.1%	396	38.3%	
日曜日	27	16.9%	18	10.2%	27	17.3%	25	14.8%	32	19.8%	38	18.1%	167	16.2%	
居住地															
大阪府	107	66.9%	106	59.9%	97	62.2%	102	60.4%	108	66.7%	129	61.4%	649	62.8%	0.71
兵庫県	20	12.5%	31	17.5%	25	16.0%	25	14.8%	27	16.7%	34	16.2%	162	15.7%	
京都府	13	8.1%	19	10.7%	12	7.7%	13	7.7%	10	6.2%	12	5.7%	79	7.6%	
奈良県	6	3.8%	11	6.2%	4	2.6%	10	5.9%	4	2.5%	6	2.9%	41	4.0%	
滋賀県	1	0.6%	2	1.1%	3	1.9%	2	1.2%	2	1.2%	2	1.0%	12	1.2%	
和歌山県	2	1.3%	1	0.6%	1	0.6%	2	1.2%	1	0.6%	1	0.5%	8	0.8%	
その他	11	6.9%	7	4.0%	14	9.0%	15	8.9%	10	6.2%	26	12.4%	83	8.0%	

表 2-2 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
年齢層															
24歳以下	44	27.5%	31	17.5%	27	17.3%	33	19.5%	28	17.3%	20	9.5%	183	17.7%	<0.01
25-34歳	78	48.8%	73	41.2%	65	41.7%	79	46.7%	80	49.4%	102	48.6%	477	46.1%	
35-44歳	28	17.5%	51	28.8%	47	30.1%	43	25.4%	34	21.0%	52	24.8%	255	24.7%	
45歳以上	10	6.3%	22	12.4%	17	10.9%	14	8.3%	20	12.3%	36	17.1%	119	11.5%	
居住形態															
同居(無回答含む)	90	56.3%	98	55.4%	76	48.7%	86	50.9%	70	43.2%	98	46.7%	518	50.1%	0.13
独居	70	43.8%	79	44.6%	80	51.3%	83	49.1%	92	56.8%	112	53.3%	516	49.9%	
就業形態															
常勤(非正規雇用)/パート/アルバイト/経営者/その他	67	41.9%	75	42.4%	65	41.7%	70	41.4%	66	40.7%	80	38.1%	423	40.9%	0.92
学生	22	13.8%	21	11.9%	19	12.2%	20	11.8%	17	10.5%	19	9.0%	118	11.4%	
常勤(正規雇用)	71	44.4%	81	45.8%	72	46.2%	79	46.7%	79	48.8%	111	52.9%	493	47.7%	
性的指向															
ゲイ以外(無回答含む)	24	15.0%	35	19.8%	25	16.0%	20	11.8%	29	17.9%	33	15.7%	166	16.1%	0.47
ゲイ(同性愛者)	136	85.0%	142	80.2%	131	84.0%	149	88.2%	133	82.1%	177	84.3%	868	83.9%	
過去6ヵ月間の商業施設利用(バー・ナイト・ショップ・有料)															
なし(無回答含む)	35	21.9%	54	30.5%	41	26.3%	40	23.7%	42	25.9%	52	24.8%	264	25.5%	0.57
あり	125	78.1%	123	69.5%	115	73.7%	129	76.3%	120	74.1%	158	75.2%	770	74.5%	

表 2-3 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？															
過去6ヵ月の間	90	56.3%	91	51.4%	85	54.5%	100	59.2%	79	48.8%	114	54.3%	559	54.1%	0.53
過去6ヵ月より以前	46	28.8%	49	27.7%	38	24.4%	47	27.8%	48	29.6%	60	28.6%	288	27.9%	
生涯なし(無回答含む)	24	15.0%	37	20.9%	33	21.2%	22	13.0%	35	21.6%	36	17.1%	187	18.1%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？															
彼氏や恋人	45	33.1%	46	32.9%	36	29.3%	38	25.9%	37	29.1%	51	29.3%	253	29.9%	0.65
友達やセクフレ	40	29.4%	42	30.0%	49	39.8%	58	39.5%	46	36.2%	60	34.5%	295	34.8%	
その場限りの相手	48	35.3%	46	32.9%	36	29.3%	50	34.0%	41	32.3%	61	35.1%	282	33.3%	
その他	3	2.2%	6	4.3%	2	1.6%	1	0.7%	3	2.4%	2	1.1%	17	2.0%	
一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用状況															
不使用(無回答含む)	35	25.7%	45	32.1%	37	30.1%	47	32.0%	41	32.3%	61	35.1%	266	31.4%	0.65
使用	101	74.3%	95	67.9%	86	69.9%	100	68.0%	86	67.7%	113	64.9%	581	68.6%	

表 2-4 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
生涯のHIV抗体検査受検経験															
ない・無回答	44	27.5%	48	27.1%	41	26.3%	39	23.1%	32	19.8%	36	17.1%	240	23.2%	0.09
ある	116	72.5%	129	72.9%	115	73.7%	130	76.9%	130	80.2%	174	82.9%	794	76.8%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ない・無回答	44	27.5%	48	27.1%	41	26.3%	39	23.1%	32	19.8%	36	17.1%	240	23.2%	0.19
1回・2回	58	36.3%	49	27.7%	50	32.1%	55	32.5%	55	34.0%	69	32.9%	336	32.5%	
3回以上ある	58	36.3%	80	45.2%	65	41.7%	75	44.4%	75	46.3%	105	50.0%	458	44.3%	
一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか?															
過去6ヵ月間の間	47	29.4%	50	28.2%	34	21.8%	48	28.4%	42	26.1%	66	31.4%	287	27.8%	0.03
過去6ヵ月以上前～過去1年の間	29	18.1%	19	10.7%	32	20.5%	29	17.2%	27	16.8%	41	19.5%	177	17.1%	
過去1年以上前～過去3年の間	24	15.0%	31	17.5%	27	17.3%	25	14.8%	32	19.9%	36	17.1%	175	16.9%	
過去3年以上前	15	9.4%	28	15.8%	15	9.6%	27	16.0%	25	15.5%	22	10.5%	132	12.8%	
未受検	44	27.5%	48	27.1%	41	26.3%	39	23.1%	32	19.9%	36	17.1%	240	23.2%	
無回答	1	0.6%	1	0.6%	7	4.5%	1	0.6%	3	1.9%	9	4.3%	22	2.1%	

表 2-5 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計	Pearsonの カイ ² 乗		
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034			
これまでにかかったことがある性感染症はありますか?																
梅毒	8	5.0%	21	13.0%	10	6.4%	17	11.3%	10	6.6%	17	8.9%	83	8.6%	0.08	
A型肝炎	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	2	1.3%	2	1.3%	1	0.5%	7	0.7%	0.73	
B型肝炎	10	6.3%	22	13.6%	14	9.0%	13	8.6%	11	7.3%	18	9.5%	88	9.1%	0.29	
C型肝炎	1	0.6%	3	1.9%	0	0.0%	3	2.0%	1	0.7%	3	1.6%	11	1.1%	0.48	
クラミジア	13	8.1%	20	12.3%	21	13.5%	14	9.3%	12	7.9%	21	11.1%	101	10.4%	0.50	
尖圭コンジローマ	10	6.3%	13	8.0%	9	5.8%	11	7.3%	7	4.6%	12	6.3%	62	6.4%	0.87	
淋病	7	4.4%	9	5.6%	6	3.8%	9	6.0%	9	6.0%	12	6.3%	52	5.4%	0.90	
HIV感染症	9	5.6%	17	10.5%	10	6.4%	12	7.9%	10	6.6%	17	8.9%	75	7.7%	0.58	
赤痢アメーバ	1	0.6%	2	1.2%	3	1.9%	5	3.3%	2	1.3%	3	1.6%	16	1.6%	0.56	
毛じらみ	28	17.5%	38	23.5%	36	23.1%	44	29.1%	43	28.5%	48	25.3%	237	24.4%	0.18	
性器ヘルペス	2	1.3%	4	2.5%	4	2.6%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.5%	13	1.3%	0.38	
その他	3	1.9%	8	4.9%	6	3.8%	1	0.7%	2	1.3%	3	1.6%	23	2.4%	0.09	
いずれもない	104	65.0%	94	53.1%	86	55.1%	101	59.8%	95	58.6%	103	49.0%	583	56.4%	0.04	

表 2-6 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計		Pearsonの カイ ² 乗
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
今日を除いて、これまでにdista(ディスタ)を訪れたことがありますか？															
過去6ヵ月以内に訪れた	117	73.1%	130	73.4%	129	82.7%	128	75.7%	121	74.7%	141	67.1%	766	74.1%	<0.01
過去6ヵ月より以前に訪れた	14	8.8%	27	15.3%	6	3.8%	20	11.8%	22	13.6%	43	20.5%	132	12.8%	
訪れたことはない(はじめて訪れた)	29	18.1%	20	11.3%	21	13.5%	21	12.4%	19	11.7%	26	12.4%	136	13.2%	
これまでにdista(ディスタ)で性感染症やエイズの情報を得たことはありますか？															
dista(ディスタ)のスタッフから	70	43.8%	86	49.7%	71	47.0%	90	53.9%	92	57.1%	110	52.4%	519	50.8%	0.18
dista(ディスタ)に来て、利用者から	28	17.5%	24	13.9%	24	15.9%	26	15.6%	21	13.0%	28	13.3%	151	14.8%	0.85
dista(ディスタ)に来て、友達から	28	17.5%	26	15.0%	19	12.6%	24	14.4%	17	10.6%	24	11.4%	138	13.5%	0.45
dista(ディスタ)に来て、雑誌やネットで	57	35.6%	51	29.5%	51	33.8%	49	29.3%	43	26.7%	58	27.6%	309	30.2%	0.44
全くない	46	28.8%	38	22.0%	35	23.2%	36	21.6%	31	19.3%	47	22.4%	233	22.8%	0.46
これまでにdista(ディスタ)で悩みや不安について相談したことはありますか？															
dista(ディスタ)のスタッフに	50	31.3%	48	27.4%	42	27.6%	41	24.8%	44	27.3%	46	22.3%	271	26.6%	0.53
dista(ディスタ)に来て、利用者	16	10.0%	18	10.3%	10	6.6%	12	7.3%	14	8.7%	20	9.7%	90	8.8%	0.79
dista(ディスタ)に来て、友達同士で	25	15.6%	33	18.9%	23	15.1%	27	16.4%	19	11.8%	28	13.6%	155	15.2%	0.57
全くない	94	58.8%	99	56.6%	96	63.2%	105	63.6%	106	65.8%	137	66.5%	637	62.5%	0.32

表 2-7 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月 n=160	2015年12月 n=177	2016年6月 n=156	2016年12月 n=169	2017年6月 n=162	2017年12月 n=210	合計 n=1034	Pearsonの カイ ² 乗			
distaの満足度についておうかがいします。この場所はわかりやすさは？											
とても良い					30	18.5%	40	19.1%	70	18.9%	0.13
やや良い					74	45.7%	97	46.4%	171	46.1%	
やや悪い					50	30.9%	70	33.5%	120	32.3%	
とても悪い					8	4.9%	2	1.0%	10	2.7%	
distaの満足度についておうかがいします。この場所の広さは？											
とても良い					33	20.4%	120	57.4%	153	41.2%	<0.01
やや良い					78	48.1%	84	40.2%	162	43.7%	
やや悪い					47	29.0%	4	1.9%	51	13.7%	
とても悪い					4	2.5%	1	0.5%	5	1.3%	
distaの満足度についておうかがいします。この場所の使いやすさは？											
とても良い					65	40.1%	102	49.0%	167	45.1%	0.20
やや良い					90	55.6%	102	49.0%	192	51.9%	
やや悪い					6	3.7%	4	1.9%	10	2.7%	
とても悪い					1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	
distaの満足度についておうかがいします。この場所の居心地は？											
とても良い					80	49.4%	118	56.5%	198	53.4%	0.25
やや良い					76	46.9%	87	41.6%	163	43.9%	
やや悪い					4	2.5%	4	1.9%	8	2.2%	
とても悪い					2	1.2%	0	0.0%	2	0.5%	

表 2-8 コミュニティセンターdista 利用者における属性

	2015年6月		2015年12月		2016年6月		2016年12月		2017年6月		2017年12月		合計	Pearsonの カイ ² 乗	
	n=160		n=177		n=156		n=169		n=162		n=210		n=1034		
distaでの検査会「distaでちえっくん」を知っていますか?															
知っていて、利用したことがある	8	5.0%	21	12.1%	18	11.6%	27	16.2%	22	13.7%	37	17.9%	133	13.0%	<0.01
知っているけど、利用したことはない	51	32.1%	63	36.4%	63	40.6%	73	43.7%	82	50.9%	92	44.4%	424	41.5%	
知らない	100	62.9%	89	51.4%	74	47.7%	67	40.1%	57	35.4%	78	37.7%	465	45.5%	
distaでの検査会「distaでちえっくん」を知っていますか?(再掲)															
知らない(無回答含む)	101	63.1%	93	52.5%	75	48.1%	69	40.8%	58	35.8%	81	38.6%	477	46.1%	<0.01
知っている	59	36.9%	84	47.5%	81	51.9%	100	59.2%	104	64.2%	129	61.4%	557	53.9%	
今後の受検意図															
定期的には受けない	76	47.5%	93	54.1%	73	47.7%	84	50.0%	87	54.4%	86	41.1%	499	48.8%	0.41
1年間に1回くらい	33	20.6%	32	18.6%	33	21.6%	36	21.4%	26	16.3%	53	25.4%	213	20.8%	
3-6ヶ月間に1回くらい	51	31.9%	47	27.3%	47	30.7%	48	28.6%	47	29.4%	70	33.5%	310	30.3%	
感染後のカミングアウト															
話す必要がある	78	48.8%	80	45.2%	69	44.2%	78	46.2%	73	45.1%	98	46.7%	476	46.0%	0.41
自分から話したい	27	16.9%	49	27.7%	32	20.5%	29	17.2%	24	14.8%	43	20.5%	204	19.7%	
相手から話してほしい	21	13.1%	19	10.7%	17	10.9%	24	14.2%	23	14.2%	23	11.0%	127	12.3%	
話す必要はあまりない	34	21.3%	29	16.4%	38	24.4%	38	22.5%	42	25.9%	46	21.9%	227	22.0%	

研究成果の刊行に関する一覧表

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sherriff , N. Koerner, J. Kaneko, N. Shiono ,S. Takaku, M. Boseley, R. Ichikawa, S.,	Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention.	Health Promotion International	doi: 10.1093/h eapro/dav0 969.	1-13	,2015
市川誠一 , 塩野徳史 , 金子典代 , 本間隆之 , 岩橋恒太	MSM における HIV 感染予 防とコミュニティセンター の役割	化学療法の領 域 . :2016	Vol.32(5)	1029- 1038	2016
金子典代 , 塩野徳史 , 内海眞 , 山本政弘 , 健山正男 , 鬼塚哲郎 , 伊藤俊広 , 市川誠一	成人男性の HIV 検査受 検, 知識, HIV 関連情報 入手状況, HIV 陽性者の 身近さの実態- 2009 年調 査と 2012 年調査の比較-	日本エイズ学 会誌	19(1)	16-23	2017